

県会議員 奥村のり子 の
赤旗 読者ニュース



2016年10月23日 第238号
 —奥村のり子生活相談所—
 〒640-8212 和歌山市杉ノ馬場 1-11
 ☎&FAX 073-427-7121
 Eメール w-jcpen@naxnet.or.jp

国民苦しめる 介護保険改悪
 ますます自治体の役割が重要

政府は介護保険制度をさらに改悪しようとしています。来年1月から始まる通常国会に、利用料の一律2割負担など法案を提出し2018年4月に施行するつもりです。2015年4月から『改正介護保険制度』がはじまり、特別養護老人ホームの入所対象が限定され要支援サービス

の総合事業（市町村の実情に応じて運用する事業で現行より低い単価や人員基準で実施したり、ボランティアへの委託も可能なためサービスの質の低下が懸念される）移行などさまざまな改悪が行われました。その上にさらに、国民を苦しめる改悪が狙われています。

まず、政府が検討している内容は、利用料の一律2割負担化・要介護2以下の福祉用具貸与の自己負担化・要介護1・2の生活援助の自己負担化です。手足を奪い、お金がなければ介護が受けられない状況にどんどん追い込んでいくアベ政権です。

先日住民要求研究会が行われました。ますます自治体の役割が求められていることを痛感しました。悪政に負けずみなさんと知恵を出し合い、くらしをよくして行くために、さらに12月議会にむけてがんばって行きたいと思えます。

（奥村のり子）

新潟知事選・野党が勝利

共闘の進化示す歴史的勝利



「当確」の報で万歳！（中央が米山氏）

16日投票の新潟県知事選は、市民と共産、自由（旧生活）、社民、新社会、緑の5党が推す米山隆一氏が、大激戦の末、自民・公明推薦の候補に約6万3千票差で打ち勝つという快挙でした。東京電力柏崎刈羽原発の再稼働が最大争点の選挙戦で、自公は「負ける理由はない」と万全の体制。終盤には官邸、自民党本部、「原子カムラ」をフル動員し、「米山が勝てば県庁に赤旗が立つ」と古臭い反共攻撃にでましたが、米山氏は屈せず勝利。テレビの「当確」の報に仰天しながら拍手。

自主投票と決めていた民進党も衆院議員や蓮舫代表、江田代表代行も応援に駆け付けました。「野党と市民の共闘の新たな発展を促し、日本の政治の前途に希望をもたらす歴史的勝利」（志位和夫共産党委員長）となりました。

10月16日、盛大に開かれた第6回わかやま住民要求研究集会



9月議会の報告

9月29日、9月市議会が終了しました。日本共産党市議団は、提案された16件のうち3件に反対、13件に賛成しました。反対した議案は、
 ①補正予算 ②学校給食の民間委託分に本町小学校を加えるという条例 ③伏虎中学校跡地へ県立医大薬学部を誘致するための無償譲渡に係る条例です。

③の条例の3つの問題点（総務委員会で指摘）

1、併設される市民会館の基本計画は今年11月に提案される予定で、それに先立って跡地の約半分の敷地面積7000㎡を

伏虎中学校跡地貸与の条例に3つの問題点

無償貸与することはできないこと。
 2、条例を定める期間が2019年3月31日となっている。しかし、当面の契約期間は20年としており、無償貸与の期間中に根拠条例をなくすことは問題。
 3、県立医大を特定し誘致しようとしているのに、条例はそのことが明記されていないばかりか「法規の一般性」の観点から、どこでも名乗りをあげることでできるようになってきていること。

私たち共産党市議団は、薬学部の誘致に反対していません。市民会館が市民の望む、使い勝手のよいものになるかどうかを検証するまでは無償貸与の議案を出すべきでないと主張してきました。現時点での議決を強要するやり方と条例案そのものに問題があるため反対しました。

党市議会議員 南畑さち代



- のり子の週刊日誌—主なもの—
- 10月21日 市駅前／吉宗像前宣伝、地域訪問、つどい
 - 22日 地域訪問行動、パーム前宣伝、日中友好協会総会
 - 23日 ウオーキング
 - 24日 国会議、河西無料生活相談、庁内訪問
 - 25日 会議、大運動対市交渉
 - 26日 日中日本の近現代史、被爆者宣伝
 - 27日 市駅無料生活相談、つどい